



11/05/2011 Doreen Hove/ICRC
ナミビア ウィントフック
ICRCによる家族訪問プログラムの一環で
拘束されている夫と面会



05/04/2011 Marko Kokić/ICRC
南オセチア/ジョージア
南オセチアに暮らす老夫婦
隣国ジョージアにいる子どもとの唯一の連絡手段は赤
十字通信（近況を伝える短い手紙）と月一回の電話



30/08/2011 Vijay Sharma/ICRC
ネパール ネパールカンジ
8月30日の国際失踪者デー
消息の途絶えた家族の身に何が起きたのか
真実追求を訴える人々



15/05/2012 Andrea & Magda/ICRC
ヨルダン川西岸ジェニン
拘束されているパレスチナ人を訪問できるよう
親族の交通手段を手配するICRC職員



29/06/2011 Noora Kero/ICRC
リベリア グランドゲデ
コートジボワールにいる両親を捜すため
子どもたちからの情報を書き留める



30/08/2012 Flora Bagenal/ICRC
ウガンダ ルウムワンジャ
コンゴ民主共和国の戦場から逃れてきた子どもは
親族が見つかるまで難民キャンプで過ごす



29/08/2012 Flora Bagenal/ICRC
ウガンダ ニヤカンデ
コンゴ民主共和国に残る親族と電話をする避難民



10/09/2013 Pawel Krzysiek/ICRC
イラク アンバール
シリアのダマスカスに残してきた息子の声を聞き
安堵する女性



22/05/2013 Romaric Bekourou/ICRC
中央アフリカ共和国 バンギ
かつて武装グループの一員だった少女は
赤十字通信で父の死を知らされる



01/2013 s.n./ICRC
ウガンダ
2年間離ればなれになっていた母親のもとに
少女を連れて行くICRCの日本人職員



30/01/2013 Pedram Yazdi/ICRC
リベリア/コートジボワール
リベリアの難民キャンプから家族が待つ
コートジボワールに向かう少年



01/2013 s.n./ICRC
ウガンダ
難民キャンプで9年過ごした青年は
祖父母が待つコンゴ民主共和国へと出発する

戦争、内戦などの犠牲者に対して人道支援を行う赤十字国際委員会、災害や保健・衛生において世界レベルでの人道的活動を取りまとめを行う国際赤十字・赤新月社連盟、そして、各国内において災害や医療・保健、社会福祉、青少年育成などの事業を展開する各国赤十字・赤新月社は、「生命と健康を守り、人間の尊厳を確保する」という目的のため、あらゆる状況下で人間の苦痛を予防・軽減することに努めています。これら全ての活動は、「国際赤十字・赤新月運動」として世界中で展開され、多くのボランティアと共に、「人道」の実現を目指しています。

はじめに

武力衝突、自然災害、移動によって、毎年数え切れないほどの家族が離ればなれになっています。最愛の家族と連絡が取れなかったり、大切な人の消息が分からないことほど、辛いことはありません。いつでも家族と繋がっているということは、人がどんな困難な状況でも力強く生き抜くために必要不可欠といっても過言ではありません。

離散の原因はさまざまです。紛争、自然災害から逃れる途中で、子どもが親からはぐれてしまうことがあります。高齢者や病人は、住み慣れた地から避難したくない、もしくは避難できない場合もあり、けが人は家族に知らせることができないまま、病院に搬送されることがあります。あるいは、親族に状況を伝える機会を与えられないまま身柄を拘束されることもあります。

離ればなれになった家族の行方を捜したい、連絡を取りたい、再会したいと願うことは当たり前のことです。国際人道法と国際人権法の中でも、行方不明の家族の消息を知る権利は明記されています。

赤十字国際委員会（ICRC）は各国赤十字社・赤新月社と協力しながら、緊急事態などによって離散した家族を支援するために、世界中で活動しています。またこのような状況に置かれている人々に対して、尊厳を維持し、配慮と思いやりを持って接するように職員とボランティアは力を尽くしています。赤十字の仕事は、戦争やその他の緊急事態が終息した後も、何年も続くことがあります。

離散家族支援（Restoring family links: RFL）にはさまざまな活動が含まれます。その一つは電話やインターネット、手紙などといった連絡手段を提供することです。行方不明者、死亡者などの情報収集をはじめ、消息を絶った人の追跡、家族とはぐれてしまった子ども、被拘束者といった特に弱い立場に置かれている人の登録も実施しています。そして全てがうまくいった後に、ようやく家族の再会が実現されます。

武力紛争や自然災害、移動によって親族と離ればなれになった人が再び連絡を取り合い、また連絡が途絶えないようにすることは、国際赤十字・赤新月運動（赤十字運動）の基本的な活動の一つです。

本写真展は、赤十字運動が家族の結びつきを取り戻すために、どのように活動し、なぜ多くの人にとって重要なかを紹介します。

離散家族の支援には、次の活動が含まれます。

- ・家族間の情報交換の手配
- ・個人の追跡調査
- ・個人の居場所の登録と追跡調査によって、失踪を防ぎ、家族と情報を共有
- ・家族の再会、場合によって本国送還
- ・関係当局に対する行方不明者の情報収集支援
- ・死亡者に関する情報の収集、管理、伝達



写真展

Families in war

～こころのライフライン～

主催：  日本赤十字社
Japanese Red Cross Society





後援：神奈川県日赤紺綬有功会



14/05/2011 Iyad El Baba/ICRC
ガザ地区南部 ラファ
砲撃や銃撃により破壊された家の前で遊ぶ子ども



30/05/2013 Hagop Vanesian/ICRC
シリア アレッポ
使用済み銃弾の収集が子どもの新しい遊びに



05/04/2011 Marko Kotic/ICRC
南オセチア/ジョージア
戦闘で命を落とした夫を思い悲しみにくれる女性
約100世帯あった村は紛争により4世帯に



16/05/2012 Andrea & Magda/ICRC
ヨルダン川西岸ナブルス近郊
イスラエルに拘束されている父親の写真を抱える少女
収容所での面会を終えて戻ってきたところ



08/03/2011 Noora Kero/ICRC
リベリア ニンバ
隣国コートジボワールに残る息子と
無料通話で話す女性



12/09/2013 Boris Heger/ICRC
中央アフリカ共和国
暴力から逃れるために郊外で生活する人々



30/06/2011 Jon Higgins/ICRC
チュニジア レマダ
リビア難民キャンプの子ども



02/05/2012 Marko Kotic/ICRC
バパニューギニア マウントハーゲン
村が武装集団に襲われ、
避難を余儀なくされている女性
夫が命を落としたため、親戚の家に身を寄せている



18/06/2013 Rodrigo Abd/ICRC
ペルー アヤクチョ
身元が分からない遺体の遺品を確かめる女性
内戦で消息が途絶えた家族の行方を追っている



18/10/2011 Iyad El Baba/ICRC
ガザ地区 ラファ
拘束を解かれ、家族との再会を喜ぶパレスチナ人



03/2012 Tom Stoddart/ICRC/
Getty Images
南スーダン上ナイル州
ICRC が設置した給水
システムにより、難民
キャンプ内の衛生環境
が改善された



02/2012 Boris Heger/ICRC
コロンビア コンキスタ
内戦による略奪や破壊から逃れてきた子どもたち
コロンビア赤十字社と ICRC は紛争で深刻なダメージを
受けたこの地に医療施設を立ち上げた



31/01/2013 Rima Kamal/ICRC
シリア ラタキア
家族用テントの近くで一日中遊んで過ごす
難民の子ども



15/12/2011 Noora Kero/ICRC
コートジボワール
リベリアの難民キャンプで生活していた
二人の娘との再会を喜ぶ両親



01/2012 Espérance Tshibuabua/ICRC
コンゴ民主共和国 ルブンパン
子どもとの5年ぶりの再会を喜ぶ男性



29/10/2013 Didier Revol/ICRC
ヨルダン ルワイシッド
シリア難民の子ども
定期的に毛布や燃料缶、衛生用品を提供



06/08/2013 John Spaul/ICRC
レバノン ベイルート
シリアから逃れてきた家族
彼らの生活は厳しく、子どもたちは
学校へ行くこともできない



02/04/2012 Boris Heger/ICRC
コロンビア
13年以上にわたり拘束されていた兵士と警察官
赤十字の標章を付けたブラジル軍のヘリコプターで輸
送



13/03/2012 Christopher Herby/ICRC
中央アフリカ共和国
一年前に武装グループにより連れ去られた息子と再会
する母親



01/06/2013 Romaric Bekourou/ICRC
中央アフリカ共和国
親との再会を果たす元子ども兵士



12/04/2011 Marko Kotic/ICRC
チェチェン共和国
少額融資を受けている女性の二人の息子は
消息がつかめていない



09/04/2011 Marko Kotic/ICRC
イングーシ共和国
父親は政治的混乱と治安の悪化により命を落とし
母親は家族を置いて出て行った
残された子どもは70歳の大叔母に育てられている



14/05/2012 Andrea & Magda/ICRC
ヨルダン川西岸ジェニン
一家の大黒柱は数年前から拘束されたまま
妻は一人で6人の子を育てている



17/01/2013 s.n./ICRC
ウガンダ アムル
娘と母親は2年間離ればなれだった
母親の住む村に戻り、曾祖母にあやされる少女



26/07/2012 Gilad Kavalchik/ICRC
イスラエル ラモン
収容所を訪問し
自由を奪われ、捕らわ
れられた身となった人と話
す ICRC 職員